

科目名	外書講読				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2022年度 前期	単位数	2		
担当教員	平澤 賢一				
内容および計画	<p>【内容・計画】</p> <p>比較的易しい英語で書かれた文章を読み、その内容について解説をした上で、内容に関する理解を深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生の進路希望先や希望を勘案して英文資料（新聞・ジャーナル・エッセー）を配布する。 ・デザイン情報コースや他学科の学生が含まれる場合は、当該学生の意向も踏まえたい。 ・「英語『を』」学ぶ講義ではなく、「英語『で』」学ぶ講義である。高校時代の様な、英文解釈の講義ではないことに注意されたい。 <p>【履修対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文の読み方に慣れたいと思っている方 ・四年制大学への編入学希望者 <p>（但し、本講義は編入学試験対策に特化した講義ではないが、これまで編入学合格者の大多数が本講義を履修した経緯がある）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業情報学科2年生を主に対象としているが、他学科の学生による受講も歓迎する 				
1	<p>【初回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の簡単なガイダンス（趣旨、目的、方法、約束事など） ・初回分の資料は事前に配布するので、初回出席予定者は事前にご連絡戴きたい ・毎回、予習してきた箇所につき解説をする 				
2	<p>【第2回以降】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、受講者各位による担当個所の報告をお願いする。 ・さらに、受講生とものによるディスカッションを通じて内容の理解を深める。 ・受講者は、担当箇所に限らず、予習をしてることが受講の前提条件である。 ・一見易しそうに見える英単語であっても、一語一語の単語につき、きちんと予習して戴きたい。 				
3	本講義の前半では、国公立大の入試過去問より「要旨大意問題」「時事問題」を題材とする予定。以下、受講生の進捗度と理解度に合わせて、題材を工夫する。				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
特に指定しない。					

<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の進路希望も勘案した英文資料（新聞・ジャーナル・エッセー）を適宜配布する ・編入学希望者が多い場合には、各大学入学試験の過去問を教材としたこともある 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内で適宜紹介をする。 ・毎回、辞書を持参のこと。電子辞書でもよい。 	
成績評価		
	評価方法	割合(%)
	毎回の予習状況とクラス参画	30
	定期試験	70
<ul style="list-style-type: none"> ・講義での報告、質疑応答での適切な返答とディスカッションへの参加・貢献度を評価する。 		
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の専門書（英字新聞・ジャーナル・エッセー）が読めるようになるための基本的な知識と能力を身に付けること ・ディスカッションによって得られる利益と価値を学ぶこと 	
先修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・英語1－4、外書講読基礎の一科目以上を履修のこと 	
実務経験	<p>実務経験有り：外資系企業（米銀・コンサルティングファーム）にて、現業部門管理者としての実務経験も有する。実務経験は本講義全般に関わる。実務経験からの知見も交えて講義を行う。</p>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の講義で使用する資料を事前にメール送信するので、受講希望者は「初回」講義の「前々日」までにEメールにて、履修を希望していることを平澤まで連絡して戴きたい ・第2回以降は、受講生の進路希望先や希望を勘案し、適宜、英文資料を配布の予定 ・四年制大学への編入学受験を考えている学生は、履修を考慮されたい。編入学試験対策の講義ではないが、英文の読み方を学ぶ機会なので、本講義を活用して戴きたい ・本講義では、英文資料を予習したうえで出席することが前提である点を注意されたい 	